

# 十和田市立 新渡戸記念館だより



▲疏水サミット初日のパネルディスカッション

▼2日目の現地研修会では約300人が記念館を見学した



[写真提供：疏水サミットinあおもり2006実行委員会]

## 第一回 全国疏水サミット

### 「疏水サミット in あおもり2006」を稲生川のある十和田市で開催!!

平成18年10月30日(月)・31日(火)

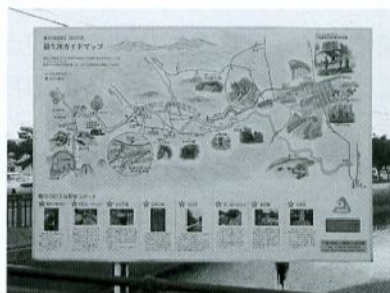
今年2月に農林水産省が認定した「疏水百選」に稲生川が全国投票第一位で選ばれたことから、第一回全国疏水サミット「疏水サミット in あおもり2006～水と土(みず・つち・さと)育む疏水～」(主催：全国土地改良事業団体連合会など)が10月30日(月)・31日(火)に十和田市で開催されました。初日に行われたパネルディスカッションでは館長がパネリストの一人となり、2日目の稲生川現地研修会では、約300人が記念館を見学しました。

#### パネルディスカッションで 館長がパネリストに

10月30日(月)奥入瀬溪流グランドホテルで行われた疏水サミットの初日には、内閣府「立ち上がる農山漁村」有識者会議座長・林良博東京大学大学院教授が「疏水に期待するもの」と題して基調講演を行い、サミットを継続的に開催して国民の疏水への関心を高め、地域ぐるみで保全活動に取り組む必要性を訴えました。さらに、稲生川、北海幹線用水(北海道)、那須野ヶ原用水(栃木県)を管理する各土地改良区が、疏水保全の事例発表を行った後、林教授をコーディネーターに、館長ほか3人のパネリスト(農林水産省農村振興局中條康朗次長、株式会社リクルート総務部中山洋子さん、財団法人まちむら交流きこう「びれっじ」編集長永田麻美さん)が、疏水を次世代へどう受け継ぐか、約500人の参加者を前に意見交換を行いました。パネルディスカッションでは、観光資源など疏水のもつ様々な機能、役割の可能性が指摘され、「疏水を守る＝農業を守る」ということが締めくくりに述べられました。

#### 現地研修会で 300人が記念館を見学

疏水サミット2日目の稲生川現地研修会では、参加者約300人が当館に来館し、当時の工具や絵図面を通して約150年前の稲生川の歴史を学びました。また、水源である奥入瀬川や、稲生川の流路をたどるバス見学が行われました。参加者は環境に配慮して整備された稲生川ふれあい公園、取水口の法量農村公園を見学し、用水機能の増進によりコミュニティの新しい核として稲生川が活用されている様子を肌で感じていました。サミットに先駆けて、相坂川左岸農業水利事業所では、当館で作成した「稲生川ガイドマップ」の看板を作り、国営完工記念碑「稲生川悠久」のそばと十和田市駅前の稲生川沿いに設置しました。



◀川沿いに設置された「稲生川ガイドマップ」看板

2007年

元朝参りは太素塚にどうぞ!!

★甘酒&お神酒の無料サービスあり★  
12月31日(日)22:00～元旦(月)1:30



## 新渡戸七郎 レリーフを

彫刻家 小柳力さんが  
制作・寄贈

館長と小学校時代に同級生で、それ以来の友人である彫刻家・小柳力さんから、この度「新渡戸七郎レリーフ」を制作・寄贈いただきました。このレリーフには、平成13年度に間伐した太素塚のヒバ材（推定樹齢150年）を使用していますが、これは新渡戸七郎が三本木原開拓に従事していた頃に植樹された木と考えられます。小柳さんによれば、太素塚には新渡戸傳、十次郎、稲造の銅像はあっても、稲造の兄である七郎の像は無く、幕末から明治初期まで、傳、十次郎の補佐役として三本木原開拓に長く関わった七郎の像が無いのは残念だと思い、制作されたということでした。また、七郎ゆかりの太素塚のヒバを使用した意味をこめて、ヒバ材の材質や元の形を生かして全体を仕上げたとのこと。特に七郎の背後

には金箔と漆を塗り、ノミ跡を際立たせる手法がとられています。一枚の写真からよみがえった新渡戸七郎の姿をぜひ一度ご覧下さい。

### ◀彫刻家・小柳 力さん

昭和16年(1941)秋田県秋田市生まれ。昭和39年から平成13年(2001)まで秋田市内中学校、小学校に勤務。その間秋田県教育庁中央教育事務所副所長や県総合教育センター教科研修部長などを歴任。平成13年秋田市立飯島南小学校校長を最後に定年退職。新制作協会をはじめ諸団体に所属し、平成15年第13回世界木彫シンポジウムに参加するなど現在も幅広く活躍している。

### <受賞暦>

昭和37年 秋田県総合美術展（県展）特選受賞・全国選抜彫刻展次席／昭和41年 秋田県造形美術家協会展特選受賞／平成8年 第60回新制作展新作家賞受賞／平成9年 秋田県芸術選奨受賞／平成14年 山下太郎顕彰会「地域振興文化賞」受賞



▲新渡戸七郎レリーフ（木彫）  
縦65.7×横46.5×厚さ7.4(cm)



## トビックス

### 太素塚の門前にサルが!?

10月29日(日)午前10時頃、館長が太素塚を見回っていたら、門の前を何か生き物が横切ってびっくり！よく見ると一匹のサルでした。ニホンザルのオスのようで、たくさんのカラスに追いかけられ近所の家の庭に逃げ込みました。通りかかった方が十和田警察署に通報し、十和田市では広報車で周辺住民への注意を呼びかけました。太素塚には多くの野鳥が訪れますが、サルが目撃されたのは初めてです。ペットのサルが逃げたものかもしれませんが、太素塚の森で一休みしたかったのでしょうか。



▲太素塚近所の家の庭に逃げ込んだサル

## ◆臨時休館のお知らせ◆

1月下旬から2月末頃まで館内整備のため休館します。  
(詳細日程は平成19年1月15日号の「広報とわだ」で確認下さい)

## 工事着手から29年目

# 国営相坂川左岸 農業水利事業が完工!!

昭和53年(1978)から実施されてきた国営相坂川左岸農業水利事業が本年度で完工となり、10月24日(火)11:30からサンロイヤルとわだで完工式が行われました。式典・祝賀会に館長が出席し、国や県、関係自治体、稲生川土地改良区など関係者約350人とともに、29年にも及ぶ大事業の完成を祝いました。

式典では、東北農政局山根祥生局長による「整備された施設を有効に活用して、豊かで住み良い農村として一層発展していただきたい」との式辞の後、来賓祝辞として三村申吾県知事が「先人の貴重な財産を有効に活用され、安全、安心、おいしい農産物の生産にさらに尽力してほしい」と地域農業のますますの発展に対する期待を述べました。また、式典にあわせて同水利事業所ならびに稲生川土地改良区では、約150年前の稲生川掘削から、国営による水路改修、整備の歴史をたどる写真集『太素の水』を作成し、参列者に配りました。



◀完工式典に先立って、関係者約40人の出席のもと西十一番町の稲生川沿いで完工記念碑の除幕式が執り行われ、三村県知事の揮毫による「稲生川悠久」と刻まれた石碑が披露されました

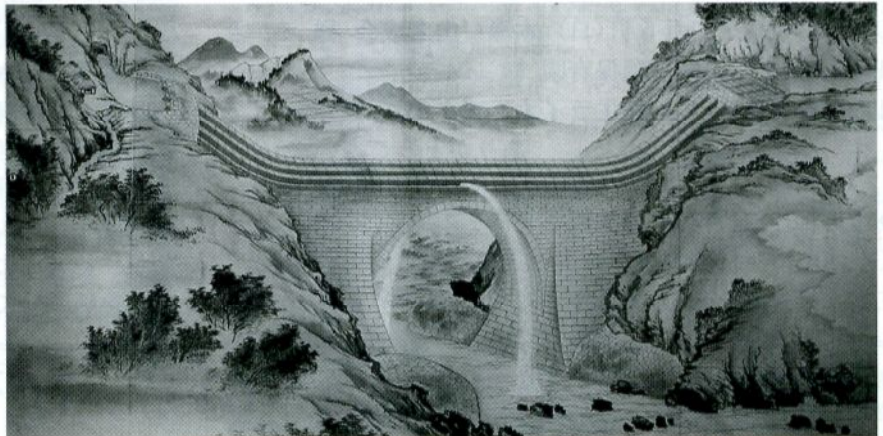
## 国営相坂川左岸農業水利事業のあゆみ

十和田市をはじめ二市四町にまたがる奥入瀬川(相坂川)左岸地域の大規模な農業開発は、約150年前、新渡戸傳をはじめとする先人が行った稲生川開削に始まりました。その後、三本木共立開墾会社などの民間団体に受け継がれ、昭和12年(1937)から昭和41年まで実施された国営の三本木開拓建設事業により、ほぼ現在の地域農業の基盤ができてきました。

しかし、第二次世界大戦をはさんで整備が進められた国営水路の老朽化や、主水源である十和田湖、奥入瀬川からの取水が河水統制計画により厳しく制限されることなどから、慢性的な水不足の問題がありました。昭和53年から始まった国営相坂川左岸農業水利事業では、稲生川をはじめ老朽化した約65kmの幹線用水路ならびに取水施設の改修や、砂土路川の取水施設、六戸調整池(総貯水量55万トン)の建設などにより用水確保がなされ、同時に砂土路川排水路約10kmを整備して排水不良も改善しました。また、景観保護や防火用水など、用水機能の増進を目的として約35kmの支線用水路の整備も行い、そうして設置した「稲生川ふれあい公園」は、コミュニティの新しい活動の場、憩いの場となっています。

## 収蔵資料紹介

熊本県山都町(旧・矢部町)にある石造りの水路橋・通潤橋の絵図面です。通潤橋は長さ約80m、高さ約21.5m、幅約6.7mで、三本木原開拓と同時代、安政元年(1854)の完成です。約6km離れた笹原川の上流から水を引いて橋の中の石造りのパイプに水を通し、轟川溪谷を越えて、対岸の白糸台地へ水を運びました。矢部郷の惣庄屋・布田保之助の計画のもと建設された通潤橋は、「肥後の石工」と呼ばれる技術者集団の石積み技術が素晴らしく、昭和35年(1960)国の重要文化財に指定されました。絵図面には、パイプ中の土砂掃除のため行われる放水の様子が描かれています。農商務省の土木技師を務めた新渡戸七郎ゆかりの資料といわれています。



資料名：通潤橋図 サイズ：縦47.0×横111.5 (cm)

### ありがとうございました

- 十和田市在住の菊愛好家・瀬川安雄さん、杉山豊美さん、大久保孜さんから、10月～11月にかけて菊の鉢植え9鉢を記念館入り口に出展いただき、美しい菊の花が来館者の皆さんを出迎えました。
- 太素塚近くに住む石川原光雄さんに本年も一年を通して太素塚美化ボランティアとして活動いただきました。

### 関連情報

#### ◆『国家の品格』の著者・藤原正彦教授ご夫妻来館

平成18年度第42回青森県PTA研究会十和田大会[11月18日(土)・19日(日)]の講演会で来十された『国家の品格』(新潮新書)の著者・藤原正彦お茶の水女子大学理学部教授が、時事通信社山田克彦青森支局長、青森県PTA連合会飯田照次会長、十和田大会実行委員会欠畑茂治委員長とともに19日講演後ご夫妻で来館されました。『国家の品格』は日本人に自信と誇りを与える書として注目されていますが、その中では新渡戸稲造の「武士道」についても熱く語られています。館長がご夫妻を案内しましたが、夫人の美子さんと、館長の親戚である大和市の開業医・安野守さんの奥様・可代さんが“またいところ”という奇縁もあり、楽しいひと時となりました。



▲二階新渡戸稲造コーナーにて、藤原正彦教授ご夫妻とともに

#### ◆太素塚清掃奉仕

10月1日(日)・11月5日(日) 本瀬戸山老成会 様

11月4日(土) 第3白菊保育園 様

11月12日(日) 十和田稲生ライオンズクラブ 様

ありがとうございました

#### ◆10月1日～11月30日の来館小学校

<十和田市>伝法寺小学校/松陽小学校/滝沢小学校/三本木小学校/法奥小学校/沢田小学校/深持小学校

### 〈編集後記〉

また冬が来ました。子供の頃内ガラスに描いた人や動物の姿を思い出します。今は家のガラスも二重になり、デッサンも出来ませんが、それは暖かさに越したことはありません。世の人の心も暖かくなりますように。どうぞ良いお年をお迎え下さい。(館長代理 新渡戸常憲)

<八戸市>白銀南小学校/新井田小学校/鮫小学校/柏崎小学校<六戸町>大曲小学校/開知小学校/六戸小学校<五戸町>五戸小学校/切谷内小学校<東北町>第一小学校/蛭沢小学校<南部町>名久井小学校<田子町>上郷小学校

### 活動報告

◆10月30日(月)十和田市で開催された「疏水サミット inあおもり2006」のパネルディスカッションで館長がパネリストをつとめました。(詳細1面)

#### ◆新渡戸稲造命日前夜祭に館長代理出席

10月13日(金)新渡戸稲造博士生誕の地である盛岡市で新渡戸稲造博士命日前夜祭(主催:新渡戸稲造博士命日前夜祭実行委員会/会場:盛岡グランドホテル)が開催され、当館から館長代理が出席しました。前夜祭では懸賞論文「武士道ー日本の心ー」(主催:財団法人・新渡戸基金)表彰式の後、東京女子大学湊晶子学長が「現代を生かす新渡戸稲造と妻メリーの精神」と題した記念講演を行いました。講演後の懇親会には、約70人が参列し、ともにテーブルを囲んで新渡戸稲造の遺徳を偲びました。

#### ◆全国博物館大会に館長代理出席

11月16日(木)・17日(金)に長崎市で開催された第54回全国博物館大会に館長代理が出席しました。1日目に開催されたシンポジウムでは「転換期における博物館運営の指標づくり」をテーマに活発な論議が行われました。



#### ◆企画展「三本木原開拓・虫図鑑～人と虫のかかわりの歴史～」好評につき、会期を延長

稲生川疏水百選記念・上水148年記念平成18年度企画展「三本木原開拓・虫図鑑～人と虫のかかわりの歴史～」の会期を8月1日(火)～9月30日(土)としていましたが、各方面より好評をいただき、10月20日(金)まで会期を延長して開催しました。

発行 太素顕彰会  
 十和田市立新渡戸記念館  
 ☎034-0031 青森県十和田市東三番町24-1  
 TEL (FAX) 0176-23-4430  
 E-mail:mitobemm@hi-net.ne.jp  
 http://www.towada.or.jp/nitobe/  
 印刷 株式会社 岩間印刷